

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 詩編 96:1~2	讃 美 歌 344 とらえたまえ、わが身を
讃 美 歌 52 主のさかえに	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 サムエル記上 2:22~26	主の祈り 564
ルカによる福音書 41~52	頌 栄 539 あめつちこぞりて
讃 美 歌 434 みかみを父と	祝 禱
説 教 『小さな心に納まる偉大な神』	後 奏

「イエスが12歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都に上った(ルカ2:42)」。男子の「12歳」は青年期に入る頃で、大幅な自由行動が許された。すると、いかにも少年らしい勝手気ままなイエスの行動が、すったもんだを引き起こす。一件落着して故郷へ戻り(2:51)、「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された(2:52)」。こんな少年の姿、他にもあったな。そうだ、サムエルだ。

「少年サムエルはすくすくと育ち、主にも人々にも喜ばれる者となった(サムエル上 2:26)」。サムエルは幼子の頃から祭司エリの許で育てられた。老エリの実子は皆ろくでもない男たちで、やがて滅びを招く(2:25)。それと対照的に、幼い弟子サムエルは「すくすく育って主と人に愛される」者となった。

神の御心は、血脈や師弟関係だけでは伝えられない。神殿での少年イエスの言葉は、両親に冷やかだが、天の「父なる神」と地の「神の子イエス」とは垂直につながっている。自由奔放な少年イエスを神殿で見つけた母マリアは、「なぜこんなことをしてくれましたのですか(ルカ2:48)」と半泣きで叱った。するとイエスは平然と答える。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか(2:49)」。バカヤロー、それが泣いている母への言葉か。

知恵の増した(2:52)ガキが、屁理屈でオトナを憤慨させるあの「バカヤロー感」なのか。しかし冷静に聞けば、まったくその通りなのだろう。イエスは幼い時から、父なる神との揺るぎない結びつきを感じていた。そしてそれは生涯を通してずっと続いていた。長じて福音を宣べ伝え、病を癒し、踏みつけられた者と神の愛を分かち合いながら、そして十字架で死なんとする時にも。「イエスは大声で叫ばれた。〔父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。〕こう言って息を引き取られた(23:46)」。

マリアは天使の受胎告知を受け(1:31)、両親は夜半に訪れた羊飼いの不可思議を体験し(2:16)、神殿でのシメオンの預言に「驚いた(2:33)」。だから「この息子には特別な何かがある」とは予感していた。とはいえ行方不明になれば死に物狂いで捜した。想像してほしい。帰路を「一日分来てしまい(2:44)」、群衆の流れとは逆の方向へ「捜しながらエルサレムに引き返す(2:45)」両親を。「こんな子を知りませんか」と必死に尋ねながら、帰路を急ぐ群衆とぶつかりつつエルサレムへ向かうマリアとヨセフ。そしてイエスを見つけるのに、三日もかかった(2:46)。子供が好きそうな所ばかりを捜していたからだ。

両親は「イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問しておられるのを見つけた(2:46)」。この場面は聖画で大仰に描かれるが、イエスが真ん中に立って厳かに教え諭しているようなものではない。青年初期の男子が、学者たちの聖書問答に加わるのは普通のこと。ただ相当な逸材ぶりではあったろう(2:47)。「わたしが自分の父の家にいるのは当たり前(2:49)」。この言葉の意味は「両親には分らなかった(3:50)」。いや、うすうす分っていたが承服できなかった、のではあるまいか。

一件落着し、ナザレに帰って平穏に暮らすが、「母はこれらのことをすべて心に納めていた(2:51)」。マリアは「すべて心に納める(2:19)」。納得できなくても(1:29)、庶民のオカンのまま(2:48)、「すべてを心に納める」。イエスと共に、神との結びつきの内にいる(2:49)ことを感じながら「心に納める」。

すべてを心に納める 理性や好みで取捨選択をしない母マリアの なんていう懐の深さであろうか  
一方また 自由少年イエスに翻弄させられる庶民オカンでもある 食い違いではない 人間の奥行  
次主日 1/25 は田口重彦牧師が説教して下さい。山本牧師は甲府中央教会へ。1/19(月)10:00~  
11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(YMCA)。1/21(水)1:00~3:00 教会カフェ(1:30~2:00 聖書の学び)。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。